

霧島山の新燃岳 約3000年ぶりのマグマ噴火



1月19日から続く新燃岳噴火で、道路や家屋に大量の灰が積もり、市民の皆さまは、大変なご苦労をされていることと思います。

幹線道路の灰については、国や県、鹿児島市などから協力をいただきながら、除去作業を進めてまいりました。

また、歩道や生活道路などの灰の除去についても、自治公民館をはじめ、地域住民の皆さまの協力のおかげによりまして、発生当初に比べ、格段に環境は改善されてきています。協力いただいている市民の皆さまに加えて、市内外から駆け付けてくださったボランティアの皆さまにも降灰除去に参加していただいていることに対し、心より厚くお礼申し上げます。

今後とも市民の皆さまの力をお借りしながら、市民と行政が一体となって降灰対策に取り組んでい

かなければなりませんので、ご協力をお願いいたします。

この火山灰の上に雨が降った場合、少量の雨でも土石流が発生する可能性があります。今後、土石流の発生が予測される場合、直ちに市からお知らせします。市としては、「人命最優先」で対応してまいりますので、ご理解いただき、避難へのご協力をいただきますようお願いいたします。

また、市内あるいは全国からたくさんの方の義援金や支援物資を頂いています。

皆さまの応援を力にかけて市民一丸となって、頑張っていきたいと思います！

都城市長

長峯 誠

これまでの経過

霧島山の新燃岳（1、4、2、1）は、1月26日、早朝から小規模な噴火が続き、午後3時30分、灰色の噴煙が火口から1、500以上空まで上がりました。気象庁は火口周辺警報を噴火警戒レベル2（火口周辺規制）からレベル3（入山規制）に引き上げ、これを受けて半径2^{キロ}（2月20日時点4^{キロ}）

以内を立ち入り禁止にしました。市では、午後5時に災害対策に向けた予備配備の情報連絡体制をとり、警戒態勢に入りました。27日には関係部課が集まり、新燃岳火山活動対策会議を開催し状況の把握に努めるとともに、28日午前9時には都城市災害対策本部を立ち上げ、火山の警戒や降灰対策などに当たりました。

1月19日の小規模噴火から始ま

った降灰は、その後も断続的に降り続き、御池町や夏尾町方面では、約8^{センチ}の降灰を記録しました。また、同時に直径5〜6^{センチ}の噴石も飛散し、車のフロントガラスを割るなどの被害を出しました。降灰量は、4、000万^{トン}とも8、000万^{トン}ともいわれ、民家や道路だけでなく、農地にも降り積もっています。農作物への被害額は約2億円（2月17日現在）に

上り、今後も増えることが予想されています。また、市は降灰に伴う降雨時の土石流を警戒し、2月18日までに避難準備情報を3回、避難勧告を1回発令し、避難を呼び掛けました。2月18日現在で、屋根の上などの降灰作業中の転落事故などで重傷6人を含む、25人が負傷しています。

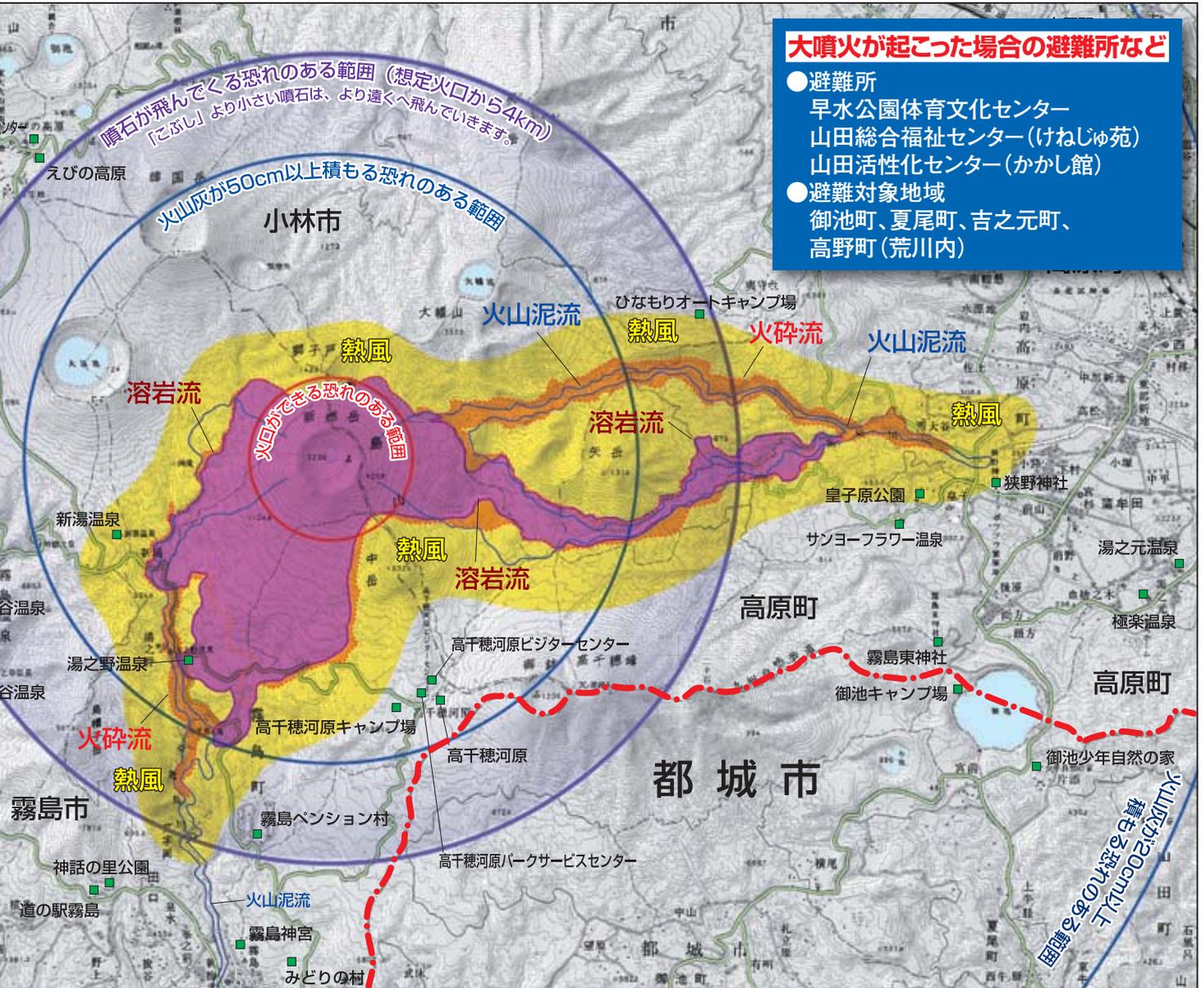
新燃岳噴火によるこれまでの主な経過

1月19日 (水)	1時30分	小規模噴火	
1月26日 (水)	15時40分 17時 18時	1,500mに達する噴火が発生 予備配備開始 噴火警戒レベル2からレベル3に引き上げ	
1月27日 (木)	1時ごろ 13時30分 15時41分 17時	空振や鳴動の報告 新燃岳火山活動対策会議 爆発的噴火 1回目 霧島火山防災連絡会	
1月28日 (金)	9時 12時47分	都城市災害対策本部設置 爆発的噴火 2回目	
1月29日 (土)	11時15分 15時30分	国土交通大臣現地調査 防災担当・環境大臣現地調査	
1月30日 (日)	13時57分 23時45分 23時50分	爆発的噴火 3回目 災害対策本部会議 高原町で避難勧告	
1月31日 (月)	1時35分 4時 14時 15時30分	警戒レベル3のままで規制範囲を2kmから3kmに変更 災害対策本部会議 降灰対策会議 霧島火山対策連絡会議	
2月1日 (火)	7時54分 11時20分 23時19分	爆発的噴火 4回目 警戒レベル3のままで規制範囲を3kmから4kmに変更 爆発的噴火 5回目	
2月2日 (水)	5時25分 10時47分 15時53分	爆発的噴火 6回目 爆発的噴火 7回目 爆発的噴火 8回目	
2月3日 (木)	8時 9分 14時 15時	爆発的噴火 9回目 土石流・泥流警戒区域協議 霧島火山防災連絡会	
2月4日 (金)	9時 17時 19時	災害ボランティア活動開始 避難所開設の指示および情報収集班の招集連絡 情報収集班西岳地区で調査開始	
2月5日 (土)	6時30分	降雨がないことを確認、情報収集班解散	
2月10日 (木)	19時	災害対策本部会議（同日3回実施） 避難準備情報を発表	
2月11日 (金)	0時 7時30分 10時 11時36分	避難準備情報の解除 避難所閉鎖 被害状況調査開始 爆発的噴火 10回目	
2月13日 (日)	17時 17時23分	災害対策本部会議 避難準備情報発表	
2月14日 (月)	5時 7分 13時30分 20時 20時 4分	爆発的噴火 11回目 政府支援チーム・国土交通省来庁 災害対策本部会議 避難準備情報の解除	
2月16日 (水)	9時30分 9時30分 22時 22時 5分	都城市議会議員新燃岳噴火に伴う被災状況調査 土石流対策意見交換会 （西岳地区館長らとの意見交換会） 災害対策本部会議 避難準備情報発表	
2月17日 (木)	9時 11時 21時	災害対策本部会議 避難勧告発令 避難勧告解除	
2月18日 (金)	9時30分	被害状況調査開始	

過去の大規模噴火から 想定した災害区域予測図

都城市は、溶岩流や火砕流の影響は少ないといわれています。

ただし、風向きによっては、火口から概ね10km以内は、大きな噴石が飛んでくる可能性があります。



※ 現在の噴火状況を表したものではありません

いざというときの心得

●非常持ち出し品の準備をしておきましょう。



噴火警戒レベル2~3 (火山周辺警報)のときには

- テレビやラジオ、防災無線などを聞いて、正しい情報を得ましょう。
- デマには惑わされないようにしましょう。
- 避難のための準備を進めましょう。
- 電気・ガスの元栓を確認しましょう。

噴火警戒レベル4~5 (噴火警報)のときには

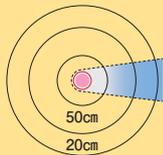
- 市からの避難勧告・避難指示に従いましょう。
- お年寄りや病人など、手助けが必要な人の避難を助けましょう。
- 慌てずに落ち着いて行動しましょう。
- 戸締まり、貴重品を忘れないようにしましょう。
- 落ち着いたら親戚や知人へ避難場所などを伝えましょう。

特集 霧島山の新燃岳 約300年ぶりのマグマ噴火

「この地図の作成にあたっては、国土地理院の了承を得て、同院発行の5万分の1地形図、数値地図25000（地図画像）および数値地図50mメッシュ（標高）を使用したものである。（承認番号 平20業使、第16号）」

噴火で起きる現象

※ 図示した噴火の規模や現象は、過去の噴火から想定したもので、
気象庁の発表する「噴火警戒レベル」について示したものではありません
※ 火山灰が10cm以上積もる地域では、土石流が発生しやすくなります



降灰の可能性の高い範囲は、霧島上空の風が年間を通し、主に西から吹いているため、火口の東側になります。ただし、風向きで、どの方向にも降灰する可能性があり、全方向について降灰した場合の厚さを示しています。

記号の意味

- 主要な観光・公共施設
- 主要な国道・県道など
- 高速道路（IC名など）
- - - JR線路（駅名）

降 灰



2月3日の御池小学校の様子

噴火によって火砕物が巻き上げられ、地上に落下したものをいいます。風に乗って広範囲に拡散し、農作物の被害や車の運転などに生活に大きな影響を与えます。

空 振



2月1日の霧島市での空振被害

火山の噴火などで発生する空気振動のうち、人間の耳では直接聞くことが難しいものをいいます。衝撃波が建物にぶつかり、窓ガラスなどが破損します。

火砕流・熱風



長崎県雲仙普賢岳（平成3年）

高温の溶岩片、火山灰、火山ガスなどが混ざりあって、熱風を伴いながら高速に流下する現象をいいます。破壊的な被害を与える大変危険な現象です。

噴 石



東京都三宅島（平成12年）

噴火によって岩石が上空に飛び出し、落下したものをいいます。火口に近いほど量が多く、サイズも大きくなります。熱を持つものもあり火事になることもあります。

火山泥流



東京都三宅島（平成12年）

火口湖で噴火が起きると火口湖が決壊し、大量の水が火山灰などを巻き込みながら高速で流れ下ることがあり、破壊力も大きく広範囲に被害が及ぶことがあります。

溶岩流



東京都伊豆大島（昭和61年）

マグマが火口から流出し、斜面を流下する現象です。溶岩流の速度は遅いため、落ち着いて避難できます。

新燃岳 火口



平常時（噴火警戒レベル1） のときには

- 霧島山の噴火の歴史や噴火の特徴について知っておきましょう。
- 家族で避難場所や避難路について、話し合っておきましょう。
- 避難時に危険な箇所を、事前に把握しておきましょう。

これからの雨に備え

土石流から身を守る

土石流とは

土石流とは、土砂や岩石などを含んだ大量の水が流れ下る現象です。その速度は速い場合、時速50〜60キロに達し、家ほどの大きな岩が流れたこともあり、大きな破壊力を持っています。

土石流は、山の斜面に火山灰が堆積していると発生しやすくなり、長崎県の雲仙・普賢岳の噴火の際には、繰り返し土石流が発生し、1,000棟を超える家屋が被害を受けています。

避難の基準

国土交通省によると、平成12年の東京・三宅島での噴火では、1時間4リという雨で土石流が発生しています。

このような土石流から市民の命を守るため、市では、早めに避難準備情報や避難勧告を出し、住民を確実に避難させる体制を作りました。

この基準については、今後、国や県などと協議し、見直しを随時行っていく予定です。

避難の区分

【避難準備情報】 避難しなければならぬ状況になる可能性があるため、準備を促す発表です。一人暮らしの高齢者や障がいのある要援護者は避難を始めましょう

【避難勧告】 避難開始を勧める発令です。避難勧告が発令された地域の人は、指定された避難所へすぐに避難しましょう

【避難指示】 避難の指示を行うものです。避難所へ避難する余裕がなければ、高台など安全な場所へ避難するなど命を守る行動を取ってください

※避難時は、自分で食料（3食分程度）を持参ください

避難所

【一次避難所】

西岳地区体育館、旧夏尾保育児童館、吉之元小学校、山田総合福祉センター（けねじゅ苑）

【二次避難所】

夏尾小学校、西岳小学校、西岳中学校

※二次避難所は、避難者が多くない次第開放します

避難対象地域

御池町、夏尾町、吉之元町、高野町および山田町の一部

県防災・防犯情報メールサービス

市では、土石流などに関する気象情報や避難勧告・指示の発令状況などの各種防災情報および防犯情報などをメールでお知らせしています。登録は、携帯電話からQRコードをバーコードリーダーで読み取ってアクセスしてください。

※免責事項に留意の上、登録をお願いします



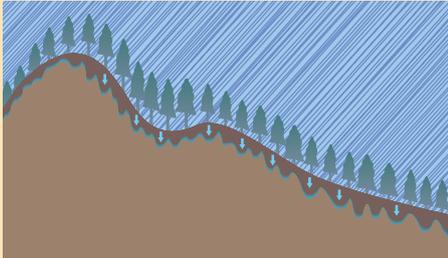
◎問い合わせ 県危機管理課

☎ 0985-26-7066

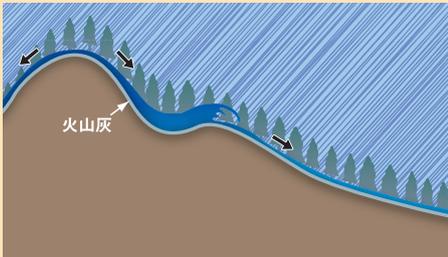
市危機管理課 ☎ 23-2129

降灰後の土石流発生のメカニズム

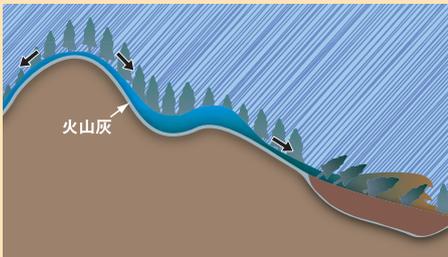
火山灰が降り積もると、なぜ土石流が発生しやすくなるのでしょうか。



①通常、山に降った雨水は地面にしみ込んで、よほどの大雨でなければ一気に流れ出すことはありません



②火山灰が降り積もり、水を含むと粘土のようになって、雨水を通しにくくなります



③比較的少ない雨でも、雨水がそのまま斜面を流れて谷に集まって地面をえぐり、さらに岩や樹木を巻き込んで破壊力を増し、大きな土石流になります

降灰に対する備えと相談窓口

相談窓口

●降灰による健康相談

市では健康課、各総合支所に灰の影響に伴う健康相談窓口を設置しています

月～金曜日 8:30～17:15
健康課 ☎23-2765

山之口総合支所健康福祉課
☎57-3111(代表)

高城保健センター
☎58-6800

山田総合支所健康福祉課
☎64-1111

高崎福祉保健センター
☎62-4411

訪問健康相談実施中

要援護者(一人暮らしの高齢者、障がい者など)で健康相談が必要な人などを対象に、市の保健師や管理栄養士が2人1組で相談に伺います

避難所での健康相談

避難の長期化が予想される場合、市の保健師などが健康相談のため、各避難所を巡回します

●農地への降灰に関する相談

降灰のあった農地の農作物や家畜用の牧草などの生育などに関する相談窓口

北諸県農業改良普及センター
☎38-1554

※北諸県農業改良普及センターでは、被害対策についてホームページでも紹介しています

●灰の除去作業に関する業者とのトラブル相談

都城市消費生活センター
☎23-7154

●火山活動関連金融相談

新燃岳の噴火により被害を受けた中小事業者の相談を受け付けます

商業観光課 ☎23-2983

1月26日の新燃岳の噴火以降、全国の皆さまから多くのご支援を頂いています。皆様から寄せられた義援金や義援物資につきましては、降灰対策、災害復旧事業、健康被害予防事業などに活用させていただきます。

●寄付の内容(2月18日現在)

義援金	288件	1,761万1,026円
物資関係	マスク	1,622万枚
	降灰袋	121万枚
	飲料水など	8,900本など



※寄付の情報は、市ホームページで詳しく掲載しています

たくさんの義援金や義援物資を全国から頂いています

●除灰作業の心得

屋根などの除灰作業中の事故が起きています。作業する場合には、次の点に留意して行いましょう。

- ①防塵マスクはもちろんのこと、コンタクトレンズではなく眼鏡やゴーグルを着用しましょう
- ②やむを得ず屋根の火山灰を除去するときには、人が乗っても大丈夫か確かめながら行いましょう
- ③除灰作業を行うときは、命綱をつけるなど、滑りやすいことを前提とした計画を立てましょう
- ④はしごや屋根の上は、表面が火山灰でとても滑りやすいので注意しましょう
- ⑤火山灰は雨どいや側溝に詰まりやすいので、水で流さないようにしましょう

●除灰作業を依頼するときのポイント

- ①作業を依頼する前に必ず見積もりを取り、納得した上で契約するようにしましょう
- ②業者が訪ねてきて作業を依頼した場合には、訪問販売になりますので、納得できない場合にはクーリング・オフ制度が適用となる場合があります
- ③被害に遭ったら、警察に被害届を出してください

●火山灰から身を守る

新燃岳の活動は続いていて、今後も風向きによっては、火山灰は降る可能性があります。その場合には、次のような対策が必要です。

- ①防塵マスクを着用するなど、火山灰を吸い込まないようにしましょう

火山灰はとても小さいので、吸い込まないように専用のマスクをするか、マスクの上からタオルなどを巻くなどして、吸い込まないようにしましょう。特にぜんそくや気管支炎など呼吸器系に問題がある人は注意が必要です。こまめな手洗い、うがいを心掛けましょう



- ②火山灰が目に入ったら、水で流しましょう

火山灰が目に入り手でこすると、目の表面に傷を作ったり、結膜炎になるおそれがあります。水で洗うなどの対策をしましょう

- ③交通事故に気を付けましょう

火山灰が降ると見通しが悪くなったり、路面が滑りやすくなります。前照灯などをつけ、安全運転を心掛けましょう